

今、授業改革が始まる！

平成30年度 高知市立昭和小学校版

社会科 における 資質・能力の育成を目指した 授業づくりのポイント

1 教材分析について ～実践のねらいと概要・教材化の視点～

この実践は、三年生の「店で働く人と仕事」の単元において、教科書に掲載された他の地域の典型事例ではなく、校区にあるスーパーマーケットを教材として実践した事例である。

○本単元では、スーパーマーケットの販売に携わる人たちの工夫、商品を通じた地域や他地域とのつながりについて捉え、自分たちの暮らしと販売の仕事のつながりについて考えていく中で、消費者としての意識を高めていくことをねらいとしている。

○身近な地域の社会的事象であるスーパーマーケットについて調べる活動は、販売に携わる人たちの仕事の内容や工夫について理解するだけでなく、人の思いや考え方に触れることで、子供たちの興味・関心を喚起し、具体的な人の営みを通して社会認識を深めることで、社会的な見方や考え方を身に付け、社会形成に参画する資質・能力の基礎を培う基となることが期待できる。

2 資質・能力の分析について ～教科の特性を生かした資質・能力の育成～

教科等横断的な資質・能力の育成～

販売の仕事は地域の人々の生活と密接な関わりを持って行われていることを理解し、見学・調査するなど、必要な情報をまとめること。
(知識・技能)

仕事の工夫・努力に着目して販売に携わる人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え表現すること。
(思考力・判断力・表現力等)

地域に根ざした働く人の生き方や考え方を通して、地域社会の一員として、また消費者の一人として、生産活動の継続や発展を願う心情や態度を育むこと。
(学びに向かう力・人間性等)

○自分の考えを相手に分かりやすく伝える力。
○根拠を挙げて発表する力。
○対話的な学びを通じて他者と協働する力。

3 よりよき学びを実現させるくふうについて ～「自ら考え学びを深める授業づくり」を実現するための視点～

(1) 主体的な学びを実現する視点

① 思考を深めるための問題設定

- ・「社会的な見方・考え方」を育てることや、「深い学び」に導くために「問い」が重要になってくる。

サンシャインはなぜ二つの売り場で野菜を売っているのだろう？

この場合は◆社会的事象の様子や仕組みを見いだす「問い」
○事象や人々の相互関係の視点(工夫、関わり、協力)に着目した「問い」に分類される。

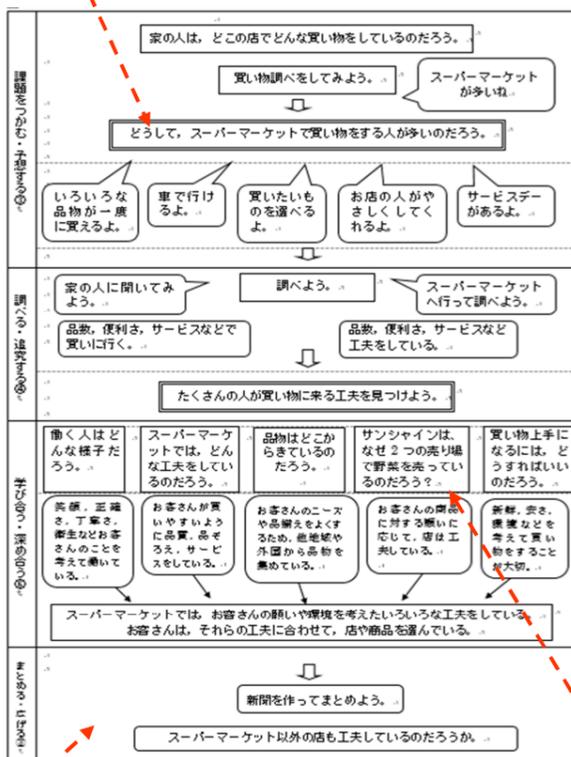
他にも◆社会的事象の特色や意味を考える「問い」

- ◆社会に見られる課題の解決に向けて、選択・判断するための「問い」の例がある。

◎このような「問い」を単元全体の過程の中で、どのように構想するかを大切にしていこう。

② 単元構想図の作成

単元を貫く共通の学習問題



目指す子供の姿を想定し、実態を踏まえながら思考を大切にしながら単元を構想する。作成に当たってはア 子供の問題意識に沿った構想図イ 目標を達成できる学習過程ウ 思考がつながる学習過程以上の三点を心がける。

学びを深め合う授業
思考力・判断力を問う問題設定

考察したことや構想したことをまとめ、さらに広げる活動

(2) 対話的な学びを実現する視点

① 他者との対話や体験の場を設ける

- ・子供が社会的事象の見方・考え方を自ら働かせるように授業設計する。
- 販売に携わる人へのインタビュー(ビデオ)を見て考察する。

【サンシャイン本部の方の話】

「選ぶ楽しさ」・「お店の魅力」・「農家の人のため」・「売上げが良いこと」について



② 対話が繋がる言語活動の充実



- ・理由や根拠を明確にする
- ・名前プレートの活用

(3) 深い学びを実現する視点

○学びを振り返り、表現する場の工夫



【児童による本時の振り返りより】
サンシャインはお客さんのためと、作った人のためと、働いている人のために、二つの野菜売り場で売っている。また来てもらいたいとがんばっている。だからお客さんの数も売上げも上がっている。